

## 北陸情報通信協議会平成 25 年度定期総会を開催 ～ “工学分野のノーベル賞”と言われる『チャールズ・スターク・ドレイパー賞』を 日本人として初めて受賞した金沢工業大学 奥村善久名誉教授が特別講演 ～

北陸情報通信協議会（会長 永原 功 北陸経済連合会会長）は、平成 25 年 4 月 22 日（月）、KKR ホテル金沢において、平成 25 年度定期総会を開催し、役員、会員等約 110 名が出席しました。

冒頭、永原会長が、「北陸地域は豊かな観光資源や文化に恵まれるとともに、北陸新幹線の金沢までの開業が平成 26 年度末に迫り、三県連携による広域観光の推進に向けて積極的な事業展開が行われる一方、人口の減少と高齢化、医師不足、地域経済の疲弊など様々な地域的な課題を抱えている。今後は ICT の利活用によって、これらの課題の解決が期待されている。平成 25 年度も会員の皆様方の協力により部会活動を充実させ、北陸における情報通信の普及・発展と豊かな地域社会の実現に向けて貢献したい。」と挨拶しました。

続いて、齊藤一雅顧問（総務省北陸総合通信局長）が、「ICT を使って北陸を元気にする、北陸の元気をつくること」が北陸総合通信局と当協議会の最大の目標。本年度もその目標に向かって、協議会の皆様とコラボレーションし、様々な施策、事業と一緒に取り組みたい。北陸の地域づくり、街づくりのお手伝いをするプロデューサー、コーディネーターの役割を目指したい。」と挨拶しました。

引き続き、平成 24 年度の事業報告、決算報告、会計監査報告及び平成 25 年度の事業計画（案）、予算（案）、役員（案）について審議が行われ、それぞれ満場一致で承認され、永原北陸経済連合会会長が会長に再任されました。

議事終了後、農林水産部会、観光部会及び安心・安全部会の各部会長から、平成 24 年度の調査研究活動について、発表が行われました。

続いて行われた北陸情報通信協議会と総務省北陸総合通信局が主催する特別講演では、“工学分野のノーベル賞”と言われる『チャールズ・スターク・ドレイパー賞』を日本人として初めて受賞された金沢工業大学名誉教授の奥村善久氏から、「日本の未来に向けて、若い世代や研究者に伝えたいこと」と題してご講演をいただき、これまでの研究生生活などを振り返って、様々なご苦労や思い出、また、仕事を成し遂げるに当たっての心構えなどについて、お話しいただきました。

特別講演の様子は、北陸総合通信局が配信する「北陸 ICT チャンネル」で視聴することができますので、ぜひ下記の（参考）を参照し、ご覧ください。

（参考）北陸 ICT チャンネル No. 29 金沢工業大学奥村善久名誉教授 “チャールズ・スターク・ドレイパー賞” 受賞記念特別講演

【<http://www.youtube.com/watch?v=symVEXASW7k>】



「部会活動を充実させ、豊かな地域社会の実現に向けて貢献していきたい」と挨拶する永原功会長



「ICT を使って北陸を元気にする、“地域づくりのプロデューサー”の役割を目指したい」と挨拶する齊藤北陸総合通信局長



インタビュー形式により特別講演を行う金沢工業大学奥村善久名誉教授（左）  
と聞き手のオフィス CUE 澤直美代表（右）

各部会の平成 24 年度の調査研究活動の発表

- 農林水産部会  
（発表者）部会長 金平 勲 一般社団法人石川県情報システム工業会アドバイザー（上）
- 観光部会  
（発表者）部会長 堀 俊和 福井大学大学院教授（中）
- 安心・安全部会  
（発表者）部会長 宮島昌克 金沢大学理工研究域環境デザイン学系教授（下）

連絡先：北陸総合通信局情報通信部電気通信事業課（担当：綿谷、中野）

電 話：076-233-4420